



ハタチ基金

震災の悲しみを
乗り越えて選んだ道。
これからは私が、
大槌の力になりたい。



2011年3月11日。あの日から10年。

震災により、津波と火災に襲われた岩手県大槌町。
大槌で育ち「大槌大好き」っ子の高木桜子さんは「大槌
を世界の人に伝えたい」と、国際観光学と英語を大学
で学び、イギリス留学をしました。そして2021年春、
これまで通ったコラボ・スクールを運営するカタリバの
職員として、新たな一步を踏み出します。
彼女のこれまでの歩みとこれからの夢をお伝えします。



津波と火災に襲われた岩手県大槌町

コラボ・スクールで 夢を応援してもらい、未来が広がった。 私も頑張っている後輩たちを応援したい。

震災があったのは、中学校の卒業式の前日でした。友だちの家にいて、高台に避難しました。転びながら必死で上に駆け上がり、なんとか体育館に避難できました。余震で体育館の天井が一部落ちてきましたし、外ではあちこちで火事が起こっていました。海の近くにあった自宅は流出しましたが、幸いなことに家族は全員無事でした。家族は下に妹と弟がいて、祖父母も入れて7人。仮設住宅は本当にせまくて、夜は皆で“お刺身のように”詰まって寝ていました。

放課後学校コラボ・スクールは親に「行ってみたら」と言われて、友だちも行っているなら軽い気持ちで通うようになりましたが、人生の進路を考える上で、大きな影響をもらいました。高校生活で悩みを抱えていた時、スカイプ英会話のフィリピンの先生が自分の話を親身になってずっと聞いてくれたんです。それをきっかけに自分の進路を色々考え始めました。

とはいって、高校を卒業したら、「なんとなく岩手県内の大学に進学かな」と思っていました。ある日、コラボ・スクールのスタッフにそう伝えたら、「安易だなあ」と言われたんです。その言葉が心にひっかかりました。確かに、よく調べもせずにいた自分は安易だったかもしれない。それで日本中の大学を調べて、自分のやってみたいことを考え、「国際観光」を学べる今の大学を見つけました。

大学生活は本当に楽しかったです。世界中から学生が集まってきていて、アメリカ、中国、インド、イギリス、フィンランド…友だちがたくさんできました。その友だちを大槌に招いたこともあります。もっと英語を学ぼうと、半年間イギリスに留学をし、釜石で開かれたラグビーW杯では、郷土料理を英語で紹介するボランティアをしました。こんな風に世界とつながれることを後輩たちにも伝えたくて、コラボ・スクール大槌臨学舎でインターーンもしました。

震災から10年が経ち、大槌も復興が進んできました。同年代の人たちが町で就職したり起業したり、新しい町を作り始めています。私もみんなに負けていられません。それに決して大槌の未来は楽観視できません。今の人口減少のスピードでいくと、大槌高校はなくなってしまいます。私は今、子どもたちが地域のことに目を向け、大槌のことを誇りに思えるような、きっかけづくりをしたいと思っています。そのため4月からコラボ・スクールを運営するカタリバで働くことにしました。コラボ・スクールで私は、将来の選択肢を広げてもらったり、自分の夢を応援してもらいました。私もそんな風に、後輩たちが頑張っていることを応援したいと思います。

これからの10年で叶えたい夢

やりたいことがたくさんあります。中学生から続けている吹奏楽も続けたいです。学んだことを生かして、観光業の仕事もしてみたいと思っています。でも今は、まず、大槌の力になりたいです。東京や海外で生活をして、大槌の良い面も課題も見えるようになりました。町の人たちが互いに頑張っていることを応援し合えるような地域になるように、働きかけていきたいと思っています。





東日本大震災から10年間

—ハタチ基金の活動—

これまでの皆さんの
ご支援のおかげで、
支援団体は、
のべ約 **55,700人***
の子どもたちにサポートを
届けることができました。

*各助成団体が算出した毎年の
支援者数を2019年度まで
合計した数字になります。

2011.4 ハタチ基金活動開始

専門分野を生かしたNPO等による共同プロジェクトとしてスタート

【0歳】避難家庭保育サポート、ふくしまインドアパーク

【5歳～】発達支援センターみなみそうまラーニングセンター

【6歳～】放課後学校コラボ・スクール、スタディクーポンの提供

復興フェーズに合わせた支援内容の変化

放射能によって外遊びができない福島の子どもたちのための屋内公園ふくしまインドアパーク。2011年に郡山園、2012年に南相馬園がオープン。こうした活動と地域の皆様の願いが伝わり、自治体が運営する屋内施設が地域に整備されたため、ふくしまインドアパークは運営を終了。

2015年からは、被災家庭の生活再建を下支えするため、待機児童の多い仙台におうち保育園を開設しました。(運営:認定NPO法人フローレンス)



地域と連携した支援の広がり

震災後の地域の状況やニーズにあわせて、子どもたちの学習支援や居場所支援を行ってきた、みなみそうまラーニングセンター。地域の待機児童解消のため、2017年に保育園、2019年に児童クラブを新たに運営し、被災地域の生活を支えてきました。(運営:NPO法人トイボックス)

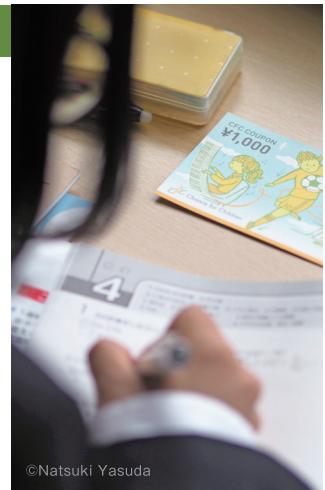
被災した子どもたちに心のケアと学びの場を届けてきた放課後学校コラボ・スクール、女川向学館、大槌臨学舎。2017年には、福島県外での避難生活を経験してきた子



どもたちに安心して学べる居場所を届けるため、福島県立ふたば未来学園高校併設のコラボ・スクール「双葉みらいラボ」が開校。(運営:認定NPO法人力タリバ) 地域と連携しながら、支援範囲が広がっていきました。

新しい仕組み、そして全国の政策へ

被災による経済的困難を抱える子どもたちに、地域の学習塾や習い事で利用できるクーポンを届けてきたスタディクーポン提供事業。(運営:公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン)これまでのべ3,000名以上の子どもたちがスタディクーポンを利用してきました。東北で広がったスタディクーポン事業は、研究者による効果検証が行われ、教育格差縮小の有効な方策として注目されています。東京都渋谷区、千葉市や那覇市などスタディクーポンを導入する自治体が、全国に広がっています。



©Natsuki Yasuda

ハタチ基金が目指す これからの10年

— 2031年 復興のその先を切り拓く力を、子どもたちに。 —

震災当初子どもだった若者たちがリーダーとなって
新しい未来をこの地域に作っていく。
そんな未来を描いて、今後10年の活動に邁進していきます。



東北から未来の復興を支える社会のリーダーを

震災の悲しみを強さに変え、東北の未来を支える
リーダーを育てていきます。

東北から社会を変える仕組みをつくる

東北の子ども支援で得られた知見を、東北全体、
そして日本全体に広げていきます。

未来につながる地域との連携

子どもたちが挑戦を重ねながら
成長していくことを支える社会制度と温かく応援し
見守る風土を東北の地に作り残していきます。

震災から10年。被災地支援のフェーズは年々変わってきています。

ハタチ基金が目指す、“悲しみ”の後の被災地支援。2031年のその日まで、子どもたちを支え続けます。

今回のご寄付

■ご都合にあわせて自由な額をご寄付いただけます。銀行振込またはクレジットカードで承っております。以下のWEBサイトよりお申込みください。
(所要時間約2分)

<https://www.hatachikikin.com/shien/tudo/donate>

ハタチ基金 今回の寄付

検索 →



※スマートフォンからのお申込みも可能です。

ご寄付口座

【三菱 UFJ 銀行】

高円寺支店：155

普通：0144274

公益社団法人ハタチ基金

コウエキシヤダンホウジンハタチキキン
シヤ)ハタチキキン

ご友人の紹介・
オンラインイベントの開催など

■ハタチ基金では、ご寄付をするだけでなく、「支援の輪を広めたい」という皆様から、様々な形でのご支援をいただいている。ご希望の方には活動報告書、リーフレット、ステッカーなどをお送りしますので、お電話・Eメールにてご連絡ください。

遺産、相続財産、
お香典によるご支援

■遺産、相続財産、お香典によるご寄付もありがとうございます。※相続財産のご寄付は相続税の免除の対象となります。

ハタチ基金への寄付は、公益社団法人の税制優遇の対象となります。



お問い合わせ 公益社団法人ハタチ基金
事務局

Tel: 03-3330-0005 (9時~18時) FAX: 020-4665-3239
Mail: info@hatachikikin.com https://www.hatachikikin.com/